

## 【高齢者の現状】

東海社会福祉科学研究所

大北 秀雄

「住み慣れた地域で、24時間・安心の介護を受けたい」という国民の願いを、どう考えて制度等が進んでいるのかを検証することも必要です。

### 1 高齢者の生活環境

#### (1) 問題点

- ①「介護殺人・介護心中」、「介護退職」、「介護難民」、「介護人材確保困難による介護崩壊」、「特別養護老人ホームへの待機者」などの問題が大きくなっています。
- ②近年は、地縁・血縁の崩壊、無縁社会の進行、地域コミュニティの崩壊状態、自治会役員の高齢化、民生委員の活動範囲、地域福祉に対する社会福祉協議会の活動、行政の専門性などの問題が多くあるのも現実です。
- ③「人口減少・少子高齢化」、「経済の低成長」など、「成熟社会」の様相を呈する社会経済状況の変化やモータリゼーションの進展等により、生活環境が厳しい状況にあります。

#### (2) 自動車と高齢者

- ①国は、1960年代後半から「高度経済成長」のため、モータリゼーション育成策を取り、その結果、マイカーの普及率が極めて高い状況になりました。また、引き続き今日まで「自動車産業育成」と「自動車中心の道路建設」が一貫してとられ、「自動車依存の生活」が定着しました。
- ②近年の状況は、道路の整備、商業施設等の郊外移転などにより、都市部の衰退、公共交通の衰退、商店街の空洞化の話題が多くなっています。
- ③高齢者社会を向かえた現在、「買物難民」といわれる人が目立つようになりました。現在より「生活はさらに自動車依存」を深めることが予想され、地方においてマイカーなしでの満足な生活ができない状況が推移しています。その状況の第一は、高齢化でマイカー運転が困難になると移動に制約が出てきます。第二には、公共交通事業の規制緩和でバス路線等の廃止が相次ぎ、生活交通手段の危機が大きくなっています。第三は、自治体で実施されていた高齢者に対する無料のシルバーパス、敬老乗車証も財政難で有料化になっているところも多くなっています。また、2000年代に入ってから市の町村合併で行政地域が拡大化し、旧市町村で運行されていたコミュニティバス、町営バス等の廃止が出ています。さらに拡大化した外周部ではさらに過疎化が進み、バス等利用者が一層減少し、路線廃止を引き起こしています。

#### (3) 地域での生活

- ①地域づくり・町づくりを進める上で、現代生活の基本要素は「衣食住交」

とか「教育、医療、福祉、交通」といわれている現状を理解し、地域の崩壊に拍車がかからないように計画を策定することが大切です。

②高齢者社会を向かえた現在、介護は誰でもが経験する時代であり、介護される方か、介護する方か、またどちらも経験しなければならない状況でもあり、これからの生活を予測する時代ですから、情報が整理されて活用できるようになったものが手元にいかに入ることが問題となってきます。制度を理解することにより適正・的確に活用することが個人に求められているところもありますので注意することが必要です。